### 疫学研究

## 福岡大公衆衛生学教授 守山正樹:

http://social-med.blogspot.jp/#!/2014/01/blog-post.html

http;::www.youtube.com/watch?v=o0YQkg1BGOg

http;::www.youtube.com/watch?v=KXI6n-QHwf8

http;::www.youtube.com/watch?v=8aJVv6FJ4g

EBM(Evidence Based Medicine)科学的根拠に基づいた医療の実践の為に、根拠となる疫学研究をする。

## 疫学研究の5手法: 介入研究:

①ランダム化:無作為抽出比較(対照)試験(randomized controlled trial, RCT 試験) ムコホート研究+要因曝露を研究者が決める

観察研究: 記述疫学((人、空間、時間)x(疾病、分布、記述)→仮説):

②コホート研究(cohort 古代ローマの 1 歩兵隊 300-600 人) コ

リスク評価 危険率

仮説的原因要因曝露の有無 2 群を設定して、10 年、20 年発症を追跡(時間軸:前向き、複数回:縦断的)

③症例対照研究\*

#### オッズ比

症例群・対照群の 2 群に関して、仮説的原因要因曝露を過去に遡って調査(時間軸:後向き)

④横断研究 ∃□

有病率

単一時間(横断的)での横断調査、アンケート調査

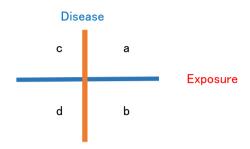
関連は指摘できるが、一時点調査なので因果関係が逆転することがある(運動不足×肥満)

⑤生態学研究 セ

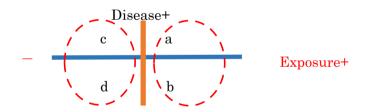
集団、国別喫煙率と肺癌発生率のグラフ

# 病気と曝露

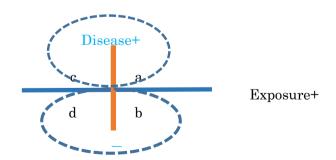
病気曝露なし	c	病気曝露あり	a
健康曝露なし	d	健康曝露あり	b



コホート研究(前向き、曝露群と非曝露群の比較): 相対危険 リスク比、相対危険度、相対リスク RR= a/(a+b) / c/(c+d)



患者対照研究(後ろ向き、症例群と対照群の比較): オッズ オッズ比 OR= a/c / b/d = ad/bc



### 罹患率

- =1-(曝露無群・要因無群罹患率/曝露有群・要因有群罹患率)
- $=1- {c/(c+d)}/{a/(a+b)}$

### 寄与リスク、寄与危険度 attributable risk AR

- =罹患率の差
- =曝露有群·要因有群罹患率—曝露無群·要因無群罹患率 =a/(a+b)-c/(c+d)、

寄与危険割合 attributable risk proportion ARP = AR/曝露有群·要因有群罹患率

- $= {a/(a+b)-c/(c+d)}/{a/(a+b)}$
- =1-(1/RR)

相対危険減少率 relative risk reduction RRR

=1-RR

絶対危険減少度 absolute risk reduction APR

- =曝露無群・要因無群罹患率-曝露有群・要因有群罹患率
- =曝露無群·要因無群罹患率 x 相対危険減少率
- =曝露有群·要因有群改善率—曝露無群·要因無群改善率
- =b/(a+b)-d/(c+d)
- 必要数 number needed NN, 1 人にイベント(治療効果、有害作用)が発生するのに必要な人数:

# 治療必要数 number needed to treat NNT

- =1/(曝露無群・要因無群罹患率-曝露有群・要因有群罹患)
- =1/APR

#### 害必要数 number needed to harm NNH

- =1/(曝露有群・要因有群罹患率—曝露無群・要因無群罹患率)
- =1/(-APR)
- =1/AR